

競技・運営上の確認事項

- 1 競技は、2019年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 開館時刻 全体育館、両日共に8：00
ただし、選手控え場所が限られているため（次の試合の選手のみ使用可）、試合時間に合わせて会場に集合すること。（遅れないように気を付けること。）
- 3 参加料の納入、エントリー確認用紙及び構成メンバー表の提出を、各チームの試合設定時間の1時間前までに、試合がある会場の受付で行うこと。これ以外のエントリー変更は、いかなる場合も一切認めない。
- 4 開会式は行わない。
- 5 第1試合の前の練習はコート設営が完了し、コート係の許可が出てから自由にコートを使って練習できる。ただし、ネット越しのプレーは禁ずる。第1試合のプロトコール開始10分前からは、第1試合のチームのみパス程度の練習とする。
- 6 ベンチ及びフロアには有効に登録された監督、コーチ、マネージャー及び選手以外は入ることができない。ただし、プロトコール前は、当該校の中学生の入場も認める。
- 7 監督、コーチ、マネージャーマークは左胸部につけ、監督、コーチは統一された服装でベンチに入ること。チームキャプテンは、胸の番号の下に規定のマークを付けること。
- 8 身体への、マジック等での書き込みは禁止する。
- 9 試合開始の予定時刻を定めているが、第2試合以降は予定した時刻より遅れることがあっても早く開始されることはない。プロトコール開始は、プログラム記載時刻の11分前とする。各試合とも10分の合同練習（パス程度）後、プロトコールに入る。ただし、第2試合の前のみ20分とする。
なお、当該チームの試合が連続してしまう場合は、前の試合が2セットで終了した場合は最大15分間、3セットの場合は最大20分間空けてプロトコールに入る。
- 10 準決勝終了後、30分間の休憩時間を設ける。この時間はフロアを使用せず、休憩後10分の合同練習（パス程度）を行い、プロトコールに入る。
- 11 公式練習は6分間とする。合同で公式練習を実施しない場合は、各チーム3分間とする。
- 12 全ての試合のスコアラー、アシスタントスコアラーは気仙地区のバレーボール部員が行う。
1日目、2日目の第1試合の点示係（2名）、ラインジャッジ（4名）は、第2試合のチームから出すこととする。第2試合目以降は前の試合の敗者チームから出すこととする。
決勝戦の生徒役員は、すべて気仙地区のバレーボール部員が行う。

選抜大会の参加基準

- 1 本大会の男女各上位16チームは、令和2年2月8日（土）～9日（日）花巻地区で行なわれる岩手県中学校選抜バレーボール大会の出場権を得るものとする。
- 2 男子チームで、1/16 ゾーンからベスト16に勝ち上がった場合、対戦した2チームのなかで得失点上回っているチームが選抜大会への出場権を得るものとする。得失点と同じ場合はチーム代表者（キャプテンまたは監督）が抽選を行う。（チーム代表者が抽選出来ない場合は、代理を依頼された者）

審判上の確認事項

- 1 本大会は、2019年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。
リベロ・プレーヤーは試合ごとに2名まで登録することができる。
- 2 リベロとの交代については、サイドライン上でいったん立ち止まってから交代すること。
- 3 サブスティチューションは、ナンバーカードを用いてのクイックサブスティチューションで行う。（カードの表示は、エリアに入るときに全体にわかるように高く掲げて入場すること）
- 4 いかなる場合でも、試合を遅らせることのないように注意する。
（タイムアウト終了後コートへの戻りが遅い、靴紐の直し、選手交代の取り消しなど遅延行為として判断される）
 - 1 ボールであっても、ボールデット時間は8秒で運営できるようチームも協力すること。
 - ①ボールデットになったならば、サーバーはサーブエリアに移動すること。
 - ②ボールデットになったならば、速やかにボールをサーバーに渡すこと。
 - ③コート外へボールが出た場合は、一人でボール拾いに行くこと。
- 5 ゲームキャプテンは質問する権利を有するが、抗議をすることはできない。また、他の競技参加者は質問する権利を有していない。
- 6 スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。また、コート上の選手がベンチのスタッフや交代競技者とタッチ（ハイタッチなど）を行わないこと。ステージ1→ステージ2へと制裁の対象となる。（相手チームに向かったのガッツポーズ等も含まれる）
- 7 タイムアウトの要求は、ベンチから立ち上がりコールしながらオフィシャルハンドシグナルを明確にして示すこと。
- 8 ゲーム中のワイピングは、原則としてコート内の選手が行う。コート内の選手で対処しきれない場合に備えて、控え選手もしくはその他の部員からクイックモップ（2名以内）を待機させることができる。
 - ①専門のクイックモップの場合は、記録席脇とベンチとアップゾーンの中間に位置し、競技役員であることから服装を選手と別のものとする。また、チームに関する一切はできない。
 - ②控え選手の場合は、ベンチから直接ワイピングし、ベンチに戻る。
- 9 各コートには、ウォーム・アップエリアを設ける。ただし、エリア内でのボールの使用は禁止する。
- 10 セット間は、試合中のチームのみフリー・ゾーンでのボールの使用を認める。隣のコートの妨げにならないように注意し、パス程度とする。